

# 連載シリーズ 京都市内博物館施設連絡協議会（京博連）加盟施設紹介

## 第2回 ちゃどうしりょうかん 茶道資料館・こんにちあんぶんこ 今日庵文庫（裏千家センター 1, 2階）



裏千家センター



センター（茶道資料館）入り口

今回は当クラブとのご縁が深い裏千家前家元の千 玄室大宗匠のお膝元、茶道資料館と今日庵文庫を紹介いたします。

ご承知の通り大宗匠には、1994年の（財）平安建都1200年記念協会会長として、8J3KY0の特別局の開局・運用に多大なご支援・ご協力を頂きました。裏千家では40数年前に裏千家職員有志が揃ってアマチュア無線の講習会を受講したこともあり、また業躰（※）と呼ばれる宗家直属の指導者の中にはJA1××の2文字コールのOMさんがおられたこともあり、現在では、大宗匠を含めて5名のライセンス保有者がいるそうです。

さらに裏千家に海外から毎年多数の要人訪問者がありますが、その中にはアマチュア無線家として有名なヨルダンのフセイン前国王（JY1）もおられたとのこと。

茶道資料館は、上京区の堀川寺之内交差点より100m北に上がった「裏千家センター」の1、2階にその展示室があります。2階には茶道関係の蔵書・資料を有する図書館「今日庵文庫」が併設されています。

展覧会の入館者は無料の呈茶席にて、椅子に腰掛けて、点前を拝見しながら抹茶を頂くことができます。



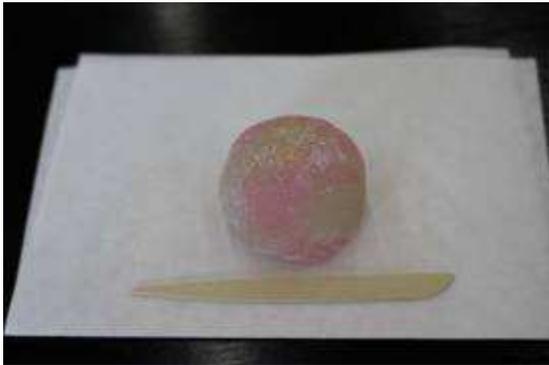
今日庵文庫 6万冊の蔵書を有する。利用は月曜日～金曜日  
（写真提供：茶道資料館）



呈茶席：緊張しながらの一服



JR7のコールを有していた茶道指導者



呈茶席の菓子 銘「曙の嶺」



呈茶席から見える中庭

床	鴨雲斎大茶匠筆「閑却花紅柳緑春」	宗賢造
花入	アマスカス製	利香造
香合	保珠	
炭斗	玄々斎村 松唐草	
引箸	天覧	
銀	流々斎村 湯泉茶候太角五郎輝	淨玄造
網	玄々斎村 太茶候	
風炉巻	切掛巻面	長之助造
香具	洋流字	双全黒
大箸	鴨雲斎村 金銀湯泉茶候	淨心造
膳器	桐竹蘭地大茶 流々斎在門	長首造
茶杓	以 大徳寺地河ノ松	
茶碗	鴨雲斎大茶匠 蘇栗金	
鉢	仙叟村湯泉茶候	長左衛門造
薄茶	宝珠し焼	本宗造
菓子	鴨雲斎村 松栢	光久小山園結
	曙の嶺	君尾守孝製

※上記菓子は完全な手作りであり、味覚にこだわりを込めています。

呈茶席で実際に使用される茶道具の一覧表（会記）です。  
資料館で過去に展観が行われた著名作家の茶碗で一服頂けます。

今回、取材のためにJH3MKP/岡口とJA3PIW/有田が茶道資料館を訪問しました。展示見学の前に呈茶席にて早速、薄茶と菓子を頂きました。通常は呈茶席での写真撮影はNGなのですが、特別に許可を頂いて一部始終を撮ることが出来ました。何と呈茶席担当者は中学生の時にライセンスを取得し、JR7×××のコールで運用もしていたYLさんでした。茶道では季節並びにお客様に応じて使用する茶道具、菓子を替えて、亭主は心を込めてお客様をもてなします。この日の茶席には今の季節を感じさせる大宗匠ご染筆の「閑却花紅柳緑春」の軸が掛かり、新元号「令和」が万葉集から出典されたことにちなんで同じ出典箇所にある「曙嶺」から銘を得た菓子が供され、茶の心をしみじみと感じました。



1 F 資料館展示室入り口

資料館の展示は茶道資料館開館40周年・今日庵文庫開館50周年記念特別展Ⅰ「裏千家所蔵の優品」及び併設展「鵬雲斎（大宗匠）コレクション撰」が催されていきました。千利休が記した消息（手紙）、三代宗旦作の竹釣舟花入を始め歴代家元作或いは好みものの茶道具が展示され、400数十年の茶道の歴史に於けるそれぞれの茶風を感じ取ることができます。

展示は、前期が4月16日（火）～5月12日（日）  
後期が5月18日（土）～6月16日（日）

となっています。

展示期間中の開館時間は午前9時30分～午後4時30分（入館と呈茶は午後4時まで）で月曜日が休館です。

期間中に行けなくても季節毎に展示がありますので、敷居が高いと思ってしまう方も、茶道に気軽にバリアフリーで接することが出来る茶道資料館を訪れるのは意義深い経験になるでしょう。小学生以下の子どもは入館料無料なので家族連れでの茶道体験もお勧めです。

（※）業躰（ぎょうてい）とは裏千家宗家で厳しい修業を受けた後に、家元に代わって指導及び茶式をすることが許されている直属の指導者を指します。

DE J A 3 P I W/有田

編集部より：今回この記事につきましては、茶道資料館様には取材に対して全面的にご協力いただき、写真撮影はもとより本文章の校正に至るまで細部に亘って目を通して正確なご指示、ご指導をいただきました。改めて御礼申し上げます。